

(様式1)

自己評価票

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の理念を一部見直し、今年度、新たに全職員で理念を作りあげた。住み慣れた地域で生きがいを持って安心して過ごしていただけるような理念とした。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を各ユニットの目につく場所に掲げ、職員一人ひとりがそれを指針として日々努力をしている。また、毎朝のミーティングにて理念を斉唱し意識づけを図っている。		理念の文字を、利用者と職員とで手作りし、各ユニットに掲げる予定があり、現在、作成中である。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族へは広報紙や各ユニットごとに掲示してあるものでお知らせしている。また、地域へ回覧する広報紙にも記載している。広報紙は回覧・配布用と家族あてのもの2部作成して内容を区別し、個人情報の保護に努めている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	住民の一人として、町会に入会しており、会議にも出席している。地域住民の参加している運営推進会議で知り得た情報を元に地域の行事には積極的に参加している。施設からは定期的に広報紙を回覧している。また、近隣住民から野菜が届けられることもある。地域の子供会が訪問することもある。施設の畑で収穫した野菜を保育園に届けてもいる。しかし、今のところ、地域の高齢者の暮らしへの支援活動やキャラバンメイト活動は実施していない。		今後も地域の行事には積極的に参加していく。また、地元の高齢者の暮らしに役立つことの話し合いは、実施されていないが、今後の検討課題である。

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>職員全員がそれぞれ自己評価を行い、更に職員会議で検討し、サービスの質の向上に努めている。</p>		<p>自己評価を行なうことにより、職員それぞれが、現在のサービスを真剣に考える機会となり、サービスに対する意識も変わってきている。今後も評価項目を意識しながらサービスにつとめていく。</p>
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>外部評価の結果については運営推進会議で報告し、施設の課題への取り組みを発表したり、出された意見はサービスに活かすようにしている。</p>		
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>・経済的に困窮している利用者に対し、生活福祉課に数度相談に行っている。 ・困難ケースについては適宜報告し、対応方法について指導を受けている。(来所しての実施指導もあり)</p>		
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>勉強会を実施し職員の理解を深めている。</p>		
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待については、情報を提供し、職員それぞれが意識しながらサービスに努めている。</p>		<p>虐待についての施設独自のマニュアルを作成中である。</p>

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際には十分な時間をとって説明し、家族や利用者からの疑問点には納得できるように説明している。特に医療に関する項目については十分時間をとっている。</p>		<p>入所の際には家族や利用者の不安が大きく、説明を受けても理解できないこともあるので、入所後の面会時にはさりげなく、声掛けし、疑問点や不安に感じていることを聞き出す。</p>
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各ユニットの食堂には目安箱が設置され、苦情や不満の申し出が出来るようにしている。</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の健康状態について変化がみられた時はすぐに家族へ連絡している。また、受診後、医師から助言を受けたことについても連絡している。預かり金については、家族に出納簿と領収書を確認してもらい確認印をいただいている。</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入所時に家族へ苦情受付について説明している。また、家族からの指摘や要望についても速やかに解決するよう努めている。</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議の場において、運営に関する意見を聞くことが時々ある。意見は運営会議に提出することもあり、また、直接上司に伝えることもある。</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>日中、利用者の状態変化など突発的な事態が発生した場合は、もう片方のユニットから応援に出向いている。また、夜間の急変時は管理者が業務を引き継いで行っている。利用者からの要望に対しては、できるだけ早く応えるように努めているが、どうしても調整がつかない場合は、利用者へ説明し、了解を得ている。</p>		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの関係が崩れることが不穏の原因となることもあり、施設内でのユニットの職員は固定化している。</p>		
5. 人材の育成と支援				
17	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各職員の習熟度に応じて研修会に出席してもらっている。また、研修の内容によっては、すぐ実践に活かせる内容のものもあり、会議などで報告してもらい、よりよいサービスに繋げている。(研修報告書は閲覧できるようにしている。)</p>		
18	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・研修会には積極的に参加し、特に他事業所職員との情報交換を心掛けている。</p> <p>・県が実施する認知症介護実践者研修の施設実習を受け入れており、その際に情報交換を行なっている。(07年度は実践者研修2名、実践リーダー研修2名、開設者研修2名)</p> <p>・改めて企画する交流事業は実施できていない。</p>		
19	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・職員の休憩室があり、業務から離れて休息ができるようにしている。</p> <p>・年数回はストレス解消を兼ねた職員の交流会が行われている。(歓送迎会、ビアガーデン、忘年会、新年会、職員旅行)</p>		
20	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・健康診断や予防注射は確実に実施し、職員が健康を保つことができるように努めている。</p> <p>・適正や能力を判断し、パート職員が常勤職員となることもある。</p> <p>・職員が自発的に資格取得に向けて努力している。</p>		

	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に際しては、家族の思いや入所される本人の状態、これまでの暮らしなどをゆっくりと聞くようになっている。申込み後は定期的に本人の状態を確認している。利用決定後は何に困っているのか、心身の状態、生活状態の把握に努めるようになっている。本人、家族の思いに向き合おうとする中で家族との信頼関係を築くことへつなげるよう努めている。	
22	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談を受けた際は話しをゆっくりと聞くようになっている。ニーズに合わせて他のサービスや、他施設への入所相談も行なっている。直接、ケアマネージャーや他施設へ問い合わせることもある。	
23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に職員が本人と面談し、状態を把握するとともに、暮らした事のない所へ行く不安の気持ちを察し、施設の様子や雰囲気を伝え、不安を軽減できるようにまた、馴染むことができるように働き掛けている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と会話の中で一緒に楽しんだり、新聞やテレビのニュースから一緒に怒ったり悲しんだりする時間を作っている。利用者と一緒に共感できることや、感謝の言葉が職員の心の支えになっている。又、時には職員側から相談してみたりと支え、支えられる関係作りに努めている。	

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時は、出来るだけ家族との会話を持つようにし、日々の様子を伝えている。時には家族へ相談し、一緒に利用者を支えていけるような協力関係の構築にむけて努力している。また、疾病の改善や悪化、心身機能の向上や低下なども速みやかに伝達し、喜怒哀楽を共有できるように努めている。		
26	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会時には、本人の家族に対する思いや、施設での状態を細かに伝えている。また、施設での行事に家族を招いたり、広報紙で日常の様子を伝えるなど、家族との関係が途切れてしまわないように支援している。		
27	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院や、信頼しているかかりつけの医院、または気に入りの店へ継続して出かける支援を行っている。友人や知人が施設へ来ることもある。		友人の面会時には継続してきてもらえるよう、職員が声がけしていく。
28	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握するようにし、知り得た情報は職員間で共有している。トラブルが発生しやすい状況においては、職員が間に入り未然におさまるように働きかけている。孤立しがちな利用者に対しては職員が対応している。		
29	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も入院しており、他施設や病院を探さなければならぬ場合など、家族から相談を受けた際は丁寧に応じている。契約終了者の状態を把握している。		契約終了となった場合でも、家族からの要望があれば相談に応じるということをはっきりと伝えるようにする。

	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、利用者と接する中で、会話やしぐさ、表情などから思いや意向を把握するように努めている。困難な場合は家族からの情報を参考に本人の思いを推測するようにしている。	
31	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には家族やケアマネージャーを通して情報を得ている。また、生活歴についてはプライバシーに関わるため、家族や利用者との信頼関係が築かれた後に支障のない範囲で提供していただいている。	一人ひとりのニーズに合った、より良いサービスを提供するためには、これまでの暮らしの把握は重要なことであり、些細な情報でも知り得た情報は所定の記録用紙に残していく。
32	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの1日の過ごし方や心身状況については、センター方式ケアマネジメントを取り入れて、把握に努めている。変化がみられた時はその状況を職員間で共有し、緊急性のあるものについては本人と話をしたり、バイタル測定などで原因を探っている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、十分な課題分析を行い(センター方式)家族や本人の要望、意向を取り入れ、職員間でも情報を出し合い、検討して作成している。	
34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月ごとに立案し、3ヶ月ごとに見直しを行っている。また、見直し以前に状態変化が生じた場合は家族や本人と話し合い、新に介護計画を作成している。	

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の援助の場面については、個別の伝達ノートや介護日誌に記入している。それらの情報を共有しながら、会議の場で検討し介護計画を立てている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	短期利用共同生活介護の指定を受けおり、併設のデイサービス利用者等が利用することもある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者の楽しみの一つに歌や踊りがあり、町内会長や民生委員からの情報で地域の催しもの(夏祭り、文化祭)に出かけている。		
38	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の意向や必要性に応じて、他のサービスを申し込む支援なども行っている。		
39	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	これまでの入所者で、地域包括支援センターとの関わりを必要とした事例がないが、地域包括支援センター職員には毎回、運営推進会議に出席してもらっている。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所前からのかかりつけ医へ継続して受診の希望があれば、意向にそうように支援している。</p>		
41	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>協力病院として精神科病院があり、受診時は細かな相談にも応じてくれている。</p>		
42	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護師が兼務で配置されており、日常の健康状態の相談や急変時の対応に関わっている。</p>		
43	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院1ヶ月を目処に病院関係者と話し合うようにしている。また、週1回、入院先へ面会に出かけ状態の把握に努めている。</p>		
44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>・特別養護老人ホーム等への入所支援 ・主治医の協力を前提とした終末期対応 この2点を基本として個々の病状や介護状況に応じて適宜その都度対応していく事としている。また、その為に入院期間は3ヶ月まで居室を確保している。</p>		
45	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>家族へは状態の変化がある都度、報告し、医師の対応についても伝えているが、家族の意向をふまえながら状況に応じて対応していく。</p>		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別のグループホームへ移る場合は、移り先の職員が訪れ、十分説明している。また、移り先の施設を見学し、安心してもらえるように支援している。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねるような対応をせぬよう職員1人ひとりが意識して接している。時には、職員の都合感情的になってしまうことがあるが、そのような場面に遭遇した場合には、職員間で注意しあっている。		
48	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	必ず、本人の意思を確認し、思いを受け入れるようにしている。また、思いを気兼ねなく話せるような雰囲気作りが必要であるが、普段からコミュニケーションに努め、信頼関係を築くように努力している。思いを伝えられない方には、職員側から、具体的事例を上げ、選択できるように支援している。自己決定出来ない場合は職員がサポートしている。		
49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて対応しているつもりであるが時には、職員中心に動く場面もある。しかし、出来るだけ早く、利用者の要望は取入れるようにしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容・美容は、本人や家族と相談の上で、昔から親しんでいる店に出掛けられるよう支援している。また、髪染めの支援も行っている。衣服購入の希望に付き添うこともある。		行事の時など、数着ある衣服の中から職員が選ぶことが多い。今後は利用者と一緒に選ぶ事とした。

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者、一人ひとりの好みを把握しながら、季節感のあるもの、昔、食べていたものなどを聞き出し、楽しんでもらえるように献立を作っている。食べられない物には代替え食を提供している。調理の際は、利用者と職員と一緒に下拵えを行ない、食材買い出しの際には、利用者も一緒に出掛け品物を選んでもらうことも行なっている。誕生日には希望食を提供している。		献立全般のバリエーションを豊富にする。
52	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好み のものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめ るよう支援している	たばこや、菓子、果物など好みのものを一人ひとりに合わせて購入している。また、毎日、晩酌を行なっ た方には、銚子(偽酒)や肴を準備し毎晩楽しんで もらっている。		
53	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人 ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気 持ちよく排泄できるよう支援している	出来るだけ、オムツを使わない方針であるが、どう しても必要な場合でも最小限の枚数にしたり、個人 の排泄パターンに合わせてトイレ介助を行なうなど、 快適に過ごせるよう検討し支援している。会議にお いても排泄の問題を取り上げて、個別に対応してい る。		
54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわ ず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、 入浴を楽しめるように支援している	週4回、入浴日を設け、決められた時間内ではある が一人ひとりの希望に合わせた時間に入浴をして いただいている。又、希望があれば、入浴日以外 でも入浴できるようにしている。		
55	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり 眠れるよう支援している	利用者が休息しているときには、無理に離床を促 すことはせず、常に意思を確認している。昼夜逆 転から不穏となることもあり、出来るだけ日中活 動的に過ごせるよう、働き掛けを行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活 かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援を している	利用者一人ひとりの生活歴や、日々の言動から、 楽しみや生きがいを見つけ出し、支援してい る。例えば、ドライブ、外出、外食、買物、調 理、掃除、裁縫、など。		日課や習慣となっているものは継続し、他にも 楽しめるものを職員全体で考え、試行錯誤し ながら行なっていく。また、殆どの利用者 の方が外出が好きである。しかし、通院支 援に時間を費やしているため、突発的な外 出の要望には応えられないこともある。今 後は通院の調整について検討課題とする。

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方には、所持してもらい、買物や受診時に支払いできるように支援している。		自己管理出来ない方でも、受診や買物の支払い直前にお金を渡し、支払してもらうことを試行する。
58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の希望があった際には、希望する場所へ出掛ける機会を設けている。しかし、勤務上、期日の希望通りには実施出来ないこともあるため、その時にはその旨を伝え、了承を得るようにしている。		
59	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ほぼ毎月、外へ出掛ける行事を計画している。ドライブ、買物、普段いけない場所へ外出する機会を作っている。		家族と職員とが共に付き添っての外出は多くの収穫があると思われる。今後の検討課題とする。
60	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が電話を取り次ぐことで会話出来るかたには、要望がないときでも職員が時期をみて電話をしている。また、年賀状や暑中見舞は出来るだけ、直筆で書いてもらっている。		電話でのやりとりは概ね出来ているが、県外在住の家族へ手紙を書くなどの支援も行なっていく。
61	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会者に対しては、明るく、笑顔で迎えるよう、帰る際にも挨拶は忘れないように心掛けている。また、ゆったりと過ごしていただけるよう、お茶を出している。面会場所として、多目的室もあり、金魚やオルガン、ソファを配置し、気軽に活用できるような雰囲気づくりを工夫している。		施設内外の環境について、家族がのぞいてみたいと思えるような環境づくりを更に検討していく。花木を増やす。
(4)安心と安全を支える支援				
62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない方針である。どのようにしたら、拘束せずすむのか、職員間でいろいろな面から検討している。やむを得ず仕方なく行う場合には、家族に説明し、承諾をもらって、経過を観察する期間を決めた上で行っている。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けることの弊害は理解しているが、利用者側から入室する人があるので自分の部屋に鍵をかけて欲しいという訴えで施錠しているところもある。その際には、家族に理由を話し、承諾をいただいている。		他の居室へ入室する利用者について、職員全体で原因分析し、鍵をかけなくてもよいよう対応を検討中である。
64	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は各フロアに居ながら利用者を見守りしている。居室にこもっている方についてもさりげなく入室し、状態を確認することが出来ている。夜間は、定時の巡回で確認している。夜勤職員の待機場所は2つのユニットの中央に位置し、利用者の状況確認がしやすい構造となっている。		
65	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	包丁などの調理器具は見えない所に保管し、夜間は施錠している。爪切りや裁縫道具、果物ナイフなど管理出来る方には、自己管理してもらっている。洗剤や石鹸は夜間は保管しているが、日中は、利用者の目に付く所に置き、自由に使えるようにしている。		目にとまることで意欲がかきたてられることもあるので、排除しすぎないようにすることも必要である。
66	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐために、ヒヤリハットメモや事故報告書を記録し、全職員で対策を検討している。窒息については、食事をミキサーや、とろみをつける工夫をしている。施設からの無断外出者については出入りを確認できるよう、玄関などにセンサーが取り付けられているが、常に入所者全員の所在確認を行なうよう日頃から気をつけている。		
67	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急処置のマニュアルを作成し、全職員に配布している。また、救急救命・心肺蘇生法の講習会にも全職員が参加している。		講習会、勉強会の機会を増やす。
68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回以上実施している。今年度より、地域住民による、防災協力員を立ち上げることができた。		避難訓練の回数を増やす。

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者の状態変化時や受診後の報告など、都度家族に伝えている。起こりうるリスクについても説明し、対応策を家族と一緒に考えている。また、リスクはあるが、外出したり、散歩に出たりと、抑圧感のない生活を大切にしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	ミーティング、申し送り、記録などで情報を得る他、その日の勤務者同士で情報交換し対応している。また、毎朝、バイタル測定し、少しの変化に対しても看護師や他職員で情報を共有し、異常時は速やかに受診している。必要に応じて救急車を要請している。		
71	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服用している薬のファイルがあり、必要時は職員がそれを見ることが出来るようにしている。薬によっては(錠剤など)、服用困難になる場合は医師に相談し、粉碎してもらったりしている。また、服薬後は確実に飲み込んだのか、口腔内を確認し、周辺も確認している。		服薬援助のマニュアルを設置している。
72	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、排便チェックし、便秘気味な方には便秘解消に効果的な飲食物(牛乳やりんごなど)を摂取してもらったり、腹部マッサージや運動も取り入れている。また、朝食前には全員に牛乳を摂ってもらっている。		日課に便秘対策運動を取り入れる。
73	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声がけ、見守り、又は介助を行っている。それでも不十分な方には口腔清拭を行っている。		入歯が合わない時には協力いただいている歯科医院などへの受診や往診を行なっている。
74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量が不足とならないよう、利用者一人ひとりの摂取状態を日々観察している。咀嚼や嚥下状態に合わせて刻み食やミキサー食を提供したり、嗜好に合わない食べ物に対しては代替品を提供するなどの工夫をしている。		栄養士に定期的に栄養摂取状態を調べてもらっている。

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についての情報収集を行ない、全職員に配布している。インフルエンザについては、職員、利用者共に予防接種を受けている。また、予防対策として加湿器の設置、居室内に洗濯物を乾かす、受診時のマスク着用、外出時の手洗い、うがいを徹底し予防に努めている。		
76	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾の煮沸消毒、調理器具の洗浄、調理器具使用前の消毒薬スプレーなどで食中毒予防に努めている。食材は毎日購入に出かけ、新鮮な物を使っている。又、週1回、冷蔵庫に保存している食品を点検し、賞味期限ぎれの食材を処分している。		食材のいたみやすい時期の生もの購入の際はクーラーボックスなどを利用する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
77	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	グループホームが建物の奥に位置しているため、案内板を設置している。また、グループホームの玄関は2つあり、初めての方には分かりづらいことから、どちらからでも入れるように記したものを掲示している。玄関周辺にはプランターに花を植え、来客者が親しめるように工夫している。		敷地内の花壇には花を植えているが、道路端にも花を植え、地域の方々が親しめるようにしていく。
78	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂の照明は明るすぎないように工夫されているが、夕食時に暗いと感じることもある。新聞読みの際に暗いと感じられるときには部分照明を利用できるしくみである。		食堂の照明器具を来年度初めに増やす予定である。
79	共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や食堂にはソファが設置され、気の合う方々の談笑の場として利用されている。また、ベランダにはベンチやテーブルが設置され、喫煙や日向ぼっこに活用されている。		

		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、長年使い慣れた道具や家具、又は花や額縁を配置し、居心地よく過ごせるようにしている。新たに購入希望が出た際には職員と一緒に購入に出掛けている。		
81	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気については、午前と午後に居室の窓を開けて空気の入れ換えを行っている。また、天気の良い日は天窓を活用している。室温については、居室間で温度差があるため、エアコンで温度調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険箇所は職員間で話し合い、家族にも相談の上で手すりを取り付けたり、ぶつかる危険のあるところには衝撃緩和材を貼るなどの対応をしている。ベットや家具の配置は、起き上がりやすい位置やトイレへ行きやすいよう、利用者一人ひとりの状態に合わせている。		
83	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	スタッフルームのガラス戸にぶつかって来る方がいるため、飾りをつけて目印にしている。各利用者の居室の戸はデザインが個々に違っているが、分かりづらいため、一人ひとりに合った分かり易い目印をつけている。		
84	建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	廊下にソファを設置しており、利用者がくつろぎ、会話を楽しんでいる。多目的室には金魚を飼い、ソファを置いて、くつろげるスペースを作っている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 大いに増えている ○ 少しずつ増えている ○ あまり増えていない ○ 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ほぼ全ての職員が ○ 職員の2/3くらいが ○ 職員の1/3くらいが ○ ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての利用者が ○ 利用者の2/3くらいが ○ 利用者の1/3くらいが ○ ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての家族等が ○ 家族等の2/3くらいが ○ 家族等の1/3くらいが ○ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域・行事への参加と外出支援

研修会への参加を積極的に進めている。これまで(認知症介護実践者研修修了者は4名である。)

スーパーバイザー的存在の職員がセンター内にいるので、困りごとの相談をしてる。(青森県認知症介護指導者、青森県介護支援専門員指導者)